

ポピュリズムをどう考えるか

東京大学大学院教授 藤原 帰一

- * 危機を生み出す国内要因
- * トランプに耐える世界
- * 世界に広がるトランプ現象
- * 自由主義と民主主義
- * 民主制の枠内での権力の集中
- * エリートに対抗するポピュリティ
- * 政治に取り残されたマジヨリテイ
- * 東アジアでは移民問題はない
- * 国内政治が国際政治を消費
- * いつまで褒め続けられるか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日が新年の第1回でございます。明けましておめでとうございます。今年も頑張つていい講演会を用意してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いたします。

ここ数年、第1回は藤原先生にお願いしております。昨年末も、日本の状況についていろいろな方にお話しいただきましたが、どうしても気になるのは、世界中でいろいろなことが起きており、われわれはこれをどういうふうにかえたらいいのか。世界で起きていることを広い視野から理解していかないと日本がどうするかということも理解できない。今日はじっくり藤原先生のお話をお聞きしたいと思います。

藤原 帰一 それでは藤原先生、よろしく願いたします。

す。（拍手）

藤原 皆様明けましておめでとうございます。また新年、皆様の前でお話をする機会を与えていただき大変光栄に存じます。残念ながら毎年映画の話をしていませぬが、本日も映画ではなくて、国際関係を考えるポイントについていくつか触れていきたいと思います。

危機を生み出す国内要因

本日はポピュリズムという題目を掲げました。現在の世界情勢がいろいろな形で流動しており、また潜在的に軍事的な危機を抱えているということは、改めて申し上げるまでもありません。われわれに近い問題でいえば、北朝鮮をめぐる危機はまだまだ続いています。これは瀬戸際政